

---

## 16. ALCC ビジュアル・フォーラムに向けて AV 資料作製

ALCC  
(全国)

---

### I. ALCC スライド紙芝居作成と ALCC 活動の背景と目的

#### 1. 新たな社会潮流の中で

人口の高齢化、女性の社会進出、少子化、あるいは都市化やくらし方の多様化などが進む現在、物質的豊かさだけの追求は、私達の安心で健康な生存をおびやかします。

人と人、人と自然、自然と都市が共生できる、真に豊かな社会にするためには、暮らし方を見直し、住居や都市の在り方、創られたを問い合わせ直し、また目標とする生き方を実現するためには、主体的に住まいづくり、まちづくりに参加し、実践することだと考えています。

#### 2. ALCC

ALCCは、[共に住む] [共に創る] [共に生きる] をコンセプトに1993年11月に誕生した研究活動グループです。

Alternative Living and Challenge City の略で、もうひとつの生き方・住まい方の意味と、だれにとっても生き生きと、美しく、真にやさしい街を目指す意味を込めてALCC（アルック）としました。

ALCCは、既成の概念のみに捕らわれず、自立した人と人が新しいかかわりを模索し自ら主体的に行動することによって、より自由で、楽しく、安心して住み続けられる住まいづくり、まちづくりを目指す地域や職域を超えた参加型の研究・活動グループです。

#### 3. 様々なジャンルの人や住まい手が共に住まいの問題を考える

建築や都市計画、社会福祉、行政、ジャーナリズム、アート、主婦など多様な分野の人々が集まって知識や経験を出し合い、同時に自分自身の住宅の問題でもあることを自覚しているところがALCCの特徴ともいえます。従来住宅は、専門分野の人々の手にありました。住まい手は共に創る側になかったといえます。これからは、生活者や消費者、すなわち住まい手を中心にして居住や都市の在り方を考え、創り方や実践へ結びつけることが求められます。その実現化を目指したジャンルを超えたグループです。

#### 4. ALCC スライド紙芝居の位置付け

2年間で11回開催したリレーセミナーでは、実際に何処に、誰と、どのように住みたいのか、また「共に住む、共に生きる、共に創る」住まいの可能性と問題を国内外のコレクティブハウジングや参加型のコーポラティブハウジングの事例研究を通して考えたり医・食にかかる問題や経済や法制度、現状の住宅制度等について学びました。また、2回のワークショップでは、私達が住みたい住居や生活のイメージを描いてみました。仮説の敷地ではありますが、発想から模型づくりや図面づくりは大変でしたが元気が出ました。

国内の歩学・見学も示唆的事例を選んで16事ケースをこえました。

ハウジングアンドコミュニティ財団の活動助成にあたる「ALCCスライド紙芝居」作成は、2年間の学習の成果と歩学・見学の経験、プラス取材活動がベースになっています。

## 5. ALCCスライド紙芝居と情報の共有化

セミナーやワークショップなどをとおして共有のベースづくりの必要を感じました。ALCCが考える「コレクティブハウジング」や「参加型のコレクティブリビング」をヴィジュアルなスライドと音声による「スライド紙芝居」は、専門家だけではなく、子供から高齢者まで誰にでも見て聞いてもらえるための情報ツールをつくることを目的としています。

情報を共有しながら「住む」ことの本質をたえず、きっちりと議論することから、オルタナティブハウジング実現への足がかりができると考えています。

情報の共有化を図り、広く人々の参加を得て「住まう」ことを論じ、“うさぎ”ではなく、“人間”的な住まう居住の場づくりに役立てばと思っています。

## II. ALCCスライド紙芝居と活動内容

### 1. 「ALCCスライド紙芝居」国外編、国内編の完成

オルタナティブリビング プレゼンテイションスライド『ALCCスライド紙芝居』は今回2編を作成しました。以下概要。

(1) 第1部：国外編(北ヨーロッパ編)：スウェーデン・デンマーク・オランダの12事例のコレクティブハウジングの紹介を中心に作成しました。

コレクティブハウジングとは、各々が独立した住居を持ち、それ以外に食堂、キッチン、リビングルーム、ゲストルーム、洗濯乾燥室、趣味室など豊かな共有空間をもっている集合住宅です。生活の一部を共同化し、自分達で管理運営し、老若男女あらゆる家族形態に開かれた住まいのかたちです。

一口にコレクティブハウジングといっても一様ではありません。住まい方や立地、規模、集合住宅としてのかたちは、各国の文化や社会的背景によって、また居住者の期待する協同生活の内容や程度によって異なります。

ALCCスライド紙芝居では、その多様な取り組みを紹介すると同時に取材時の資料や感想もシナリオ化しました。

資料提供はALCCメンバー小谷部、写真提供は同じくALCCメンバー小谷部、松本。シナリオはALCCオリジナルシナリオ。所要時間30分から40分。



スウェーデンのコレクティブハウジングを訪問

(2) 第2部：国内編：東京、神奈川、愛知、大阪、京都、熊本6県16事例訪問の内10事例をとりあげて見ました。

日本の取材対象は、「参加」と「共生」の居住の在り方として示唆的なものを選択した結果、主に参加型の集合住宅コーポラティブハウジングとなりました。訪れた街には、歴史的伝統と現在がほどよく融合した生き生きした地域コミュニティーや、神戸で震災からの再建に立ち向かって居る人々の生活の中にも多様なコレクティブリビングを見つけましたが、今回の国内編は集合住宅10事例にしほって紹介します。それぞれがコンセプトやテーマをもっています。居住者が設計段階から管理運営に参加し、主体的に取り組むことによってのみ可能な個人あるいは、共有の生活と環境の豊かさを、みつけることが出来ました。様々なケースが、様々なテーマをもっていきいきと存在していました。限られた制度のなかで工夫をこらして、自分らしい住居づくりをしているこれらの事例は、新しい住居の在り方を提起しています。

取材、撮影共にALCCメンバー。シナリオ ALCCオリジナルシナリオ。所要時間30分から40分。

## 2. 試写会

これらのスライド紙芝居は、1996年3月27日に試写会を行いました。参加者は約100名。多様な方々が試写を見に来てくれました。意見を聞くことも目的の一つなので、ミニアンケートをおこないました。その結果を踏まえて、国内編、国外編共30分のスライド編成に修正して、96年の企画に反映させます。



AV資料の編集作業

## III. 活動の効果

### 1. ALCCメンバーの研さんを積む機会として

ALCCスライド紙芝居の作成にあたっては、セミナーやワークショップでの学習の検証や新たな発見や実践の現場から学んだことが沢山有りました。また、学んだことをALCCスライド紙芝居にフィードバックできました。会員同志の学び合いや、次へのエネルギーとなって、ALCCの活動の機動力となります。

### 2. 他の活動や他分野の人々との交流の機会として

新しい仲間と出会い、刺激をし合い、相互に活動のエネルギーとする機会となったとともに、考え方や、価値観を共有し、新しい住居の在り方を論じる機会となりました。

オルタナティブリビングに対するニーズの大きさへの再認識の場ともなって、活動の継続を促します。

### 3. ALCC 紙芝居の活用と社会的効果として

ALCC紙芝居の活用によって、多くの人が分かりやすい住まい方ALCC情報に接する機会を広げることができ、生活者主体の住まいづくりや取り組みについて、論じる機会をつくることができると考えています。

活用の一つとして「ALCC ヴィジュアルフォーラム」計画が、現在進行中です。

## IV. 今後の課題

### 1. 具体的プロジェクトを支援するソフトの開発

続編として「実践編」の作成：事業の進め方や実施作業などを知りたいという意見は多数ありました。

また、「住環境編」の作成：居住の場を取り巻く社会サービスや住環境も含んだ続々編によって居住とそれを取り巻く問題に触れられればさらに議論も深くなります。

### 2. ALCC 紙芝居活用の機会づくり

第1回目の「ALCC ヴィジュアルフォーラム」計画は、現在進行中ですが、活用の機会を広めていきたい。

同時に貸出のルールづくりの検討を行う。学校や図書館、研修や研究会など。

### 3. NPO として継続的な活動につなげる

場所、人、経済といった、いたって現実的な課題と、NPO として継続的な活動にいかにつなげるか。同様のコンセプトを持った活動グループ間が補完し合えるネットワークの必要性。

This image shows two pages of a survey results document titled "ALCC Visual Forum Participation Survey Results". The first page has a header "スライド紙芝居参加者の声" (Voices of slide paper theater participants) and a table showing participation rates across various categories. The second page has a header "スライド紙芝居参加者アンケート調査結果の概要" (Summary of survey results for slide paper theater participants) and includes a detailed table with numerous rows of data, likely individual responses from participants.